

# 山口県教育会 「地域活性化活動助成事業」 活動概要

活動名 「ふるさと勝山の活性化事業」

## 団体の概要

団体名 勝山三山を守る会  
会 長 原田進造  
会 員 60名（令和5年11月）  
設 立 平成9(1997)年11月  
刊 行 「勝山三山を守る会」創立20周年の歩み、平成30(2018)年3月  
勝山三山登山ガイドブック、平成30(2018)年11月  
受 賞 第9回下関市景観賞受賞、平成30(2018)年10月  
会報等 会報を年1回、令和5年3月第25号発行。お知らせを年3回発行  
広 報 ブログ勝山三山(山口県下関市)の自然・史跡の保護活動ページ  
下関市社会教育振興大会で団体活動の発表、令和2(2020)年2月

## 団体の活動

- 1 勝山三山(勝山、四王司山、青山)の登山道整備と登山案内  
登山会：「山の日」早朝勝山登山(8月)、勝山三山縦走登山(12月)、四王司山初寅登山(1月)  
登山道整備：年2回、登山道の枝切りや草刈をして登山道を整備  
登山・勝山御殿案内：勝山小学校、一の宮小学校、長府小学校、山の田小学校、長成中学校、山ノ谷自治会、垢田自治会、松小田山の会
- 2 勝山御殿跡(国史跡)の保存整備  
勝山御殿本丸奥の清掃活動、毎月第1金曜日  
心字池の整備とミツガシワの保存活動(7月、12月)
- 3 研修活動  
特別講演会：年1回、総会時に歴史講座を中心とした公開講演会  
史跡探訪：年1回、近辺の史跡・国史跡、防府毛利博物館、太宰府天満宮  
先進地視察：年1回、まちづくりの先進的な地域を視察。コロナ禍で中止  
歴史ウォーク：年1回、近辺の史跡・遺跡・寺院巡り  
下関城郭サミット共催：活動紹介、青山城案内
- 4 プロジェクト事業の活動  
竹細工作製：竹馬、竹トンボ、竹ポッコリ、竹けん玉、竹下駄、くりこまなどを作製して、勝山文化産業祭で展示したり、御殿まつりで竹細工遊びをしたりして、子どもたちに遊びの指導をしている。竹細工作製は平成14年から始めて、今日まで継続している。  
紙芝居作製：勝山三山物語として、第1編「四王司山と勝山御殿」(令和2年)、第2編「勝山と青山」(令和3年)を創作し、舞台枠を作製して公開上演し、令和3年から御殿まつりでも上演している。  
勝山三山説明看板作製：勝山三山には、いずれも山城があり、覇権争いの拠点となった歴史がある。それらの説明看板を新たに山頂に建て替える。(令和2~3年)  
登山ガイド説明書作成：勝山三山登山ガイドマップの作成に引き続き、ガイド説明書を作成して、登山案内時の説明に使っている。(令和2~3年)  
的当て作製：竹材で弓矢、ベニヤ板や発泡スチロールでの的をつくり、御殿

まつりで子どもたちに的当てを射せている。(令和4～5年)  
報国隊服装作製：御殿まつりで長府藩公認報国隊の隊列行進をするため、  
隊員服装や御城神輿を作製する。(令和5年)  
しめ縄づくり：勝山公民館主催の年末しめ縄づくり講習会で講師として  
令和2年から指導している。

## 5 懇親会

夏の交流会は焼肉、冬の交流会はふく料理で会員の親睦を深めている。コ  
ロナ禍では中止している。

## 御殿まつりと勝山三山を守る会との関り

御殿まつりは、平成30(2018)年11月に明治維新150周年記念事業として勝山  
地区まちづくり協議会と共催で武者行列を行ったことに始まり、今年、勝山御  
殿築城160周年記念事業第6回御殿まつりとして開催した。第3回御殿まつりか  
らは、勝山三山を守る会会長の原田進造がまちづくり協議会副会長として、御殿  
まつりを運営した。御殿まつりの1週間前には勝山御殿跡に実物を模した御殿表  
門模型を取り付け、報国隊パネルや顔出しパネルを展示してイベントを盛り上げ  
た。昨年から舞台を設置して、太鼓、箏、金管バンド、マーチングの実演や紙芝  
居上演、現地講話を行った。また、的当て競技、竹細工遊びやミニSL乗車体験で  
子どもたちに大いに人気を呼んだ。一方、勝山小学校会場において、時間帯を移  
して合唱と講演会を開催し、好評を得た。

## ふるさと勝山の活性化事業

今年の御殿まつりは、勝山御殿築城160周年記念事業として盛大に行うため、勝  
山三山を守る会では、コロナ禍で委縮した子どもたちを元気づけるため、ふるさと  
の活性化を目指して2月から企画してきた。

一つには、勝山御殿が長府毛利藩の居城であったことに因んで、ゆかりのある報  
国隊を模した報国隊隊列行進を行うことにした。まずは隊員服を不織布で試作品  
を作製した。最初は大人用の軍服をつくる予定であったが、コロナ禍で布地が入手  
できないことから、不織布で子ども用を作製することとし、子ども報国隊を結成す  
ることになった。隊員を田倉子ども会から募ったが、子どもも多忙で服合わせに手  
間がかかった。帯刀は模造刀を準備したが、子どもには重すぎて木製で作製した。  
鉄砲も子供用に木製で作製した。神輿は、御城型神輿として作製し、子ども用に段  
ボールを用いて軽くした。太鼓を打ち鳴らしながらの子どもの隊列行進では、周り  
に人が寄り集まるほどに人気を博した。行進最後は舞台上がって氣勢を上げた。

次に、的当て競技では、的づくりはベニヤ板の上に円形に切った発泡スチロール  
を貼り付け、当たりの音が反響するように工夫した。竹製の弓は子ども用に大小の  
大きさの異なる弓を8張作製した。押しの握りの部にはテープを巻き、的ねらい  
と矢こぼれしないように枝を付けた。矢は短くして、やじりは絶縁キャップ、羽根  
はクリアファイル、箏はビニールテープを用いて、子どもにけがの無いように細心  
の注意をして作製した。競技では、小さな子どもまで大変興味をもち挑戦したいと  
いい、的に当たったものには景品を配った。

竹細工では、毎年竹材の切出しに困っている。山に竹林は多いが、竹細工用の竹  
材は、前年のところではなく、毎年新たな場所を探し出している。今年は遠く山ノ  
谷地区で切出しを行った。竹細工遊びでは、係員が一人ひとりついて指導したた  
め、子どもたちはすぐに乗りこなせて楽しんでいた。今後も創意工夫ある竹細工遊  
びを考え、子どもたちに楽しんでもらいたい。

## 成果

御殿まつりの参加者は年々増えており、今年の参加者は1,650人を超え、地域以外からも多く訪れている。子どもを対象とした舞台や遊び、また、子どもによる演技を多くとり入れたことが要因と思われる。

アンケートの回答者に配布した御城印は、ブームに乗って大変喜ばれた。

子どもの遊びは、親も興味を持ち、伝統文化の継承にも繋がる。また、工夫された遊び用具に親も関心を示し、子どもへの創造性を高める機会にもなった。

御殿まつりでやっている城址に関する講演、勝山御殿に関する紙芝居や現地講話、表門模型やパネル展示等を通して、広く地域の人たちにふるさとの歴史や文化について理解を深めさせることができ、また、新興住宅の多くなった地域でもまちづくりの活性化に繋がることができたと思われる。

## 今後の課題

国史跡勝山御殿跡に多くの人々が訪れ、その歴史と文化を理解していただくことが史跡の保護活用に重要であると認識し、御殿まつりを企画している。

しかしながら現状では、勝山御殿跡まで来るのに道路は狭く、駐車場も狭い。また、資料館もなく、アンケートでもそれらの要望が高い。

史跡の保護活用のため、勝山御殿跡でのイベント開催を重ね、創意・工夫のある形態を考えたイベントが必要である。今後、登山ブームに乗せてアスレチックや自然観察会などの行事を検討してみたい。

ただし、会員は高齢化し、若者の入会者が少ないことから新しい企画をするには、役員の若返りも必要である。



御殿まつりの表門模型



御殿まつりで紙芝居上演



山頂説明看板設置とガイド説明書



勝山御殿のミツガシワ保存作業